

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」にて重点的に取り組んだ課題にかかる検証・評価等の結果

背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施した具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)
共働き家庭やひとり親家庭の増加に伴い、放課後に一人で過ごす児童が増えており、授業以外で学習支援を受ける機会が少なくなっていることが学校・家庭の共通課題となっている。児童クラブ利用者も少なくないが、児童クラブは児童の健全育成を図る集団生活の場であり、学習指導等は行っていない。	・コーディネーターが午前中の授業参観等を通じて学習に困り感のある児童の把握および学級担任との情報共有を行い、放課後の学習支援に繋げる。 ・教員免許を持つ職員による放課後の学習支援を各校で年100回以上開催する。 ・放課後事業の中で、学びにつながる体験活動イベントを各校で年3回以上開催する。	「小1の壁」問題に対する保護者からの学習支援のニーズは高く一定の成果は出しており、コーディネーターと学校の連携による児童のアセスメント共有により、放課後の学習支援事業の周知および理解を促進する。	放課後の学習支援により低学年児童の学習習慣および基礎的・基本的な学習内容の理解・定着をはかる。	1, 2年生児童の参加率	62	%	65	60	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる 放課後の学習支援に対する低学年児童のニーズは依然として高いが、目標未達成となっており、学校、保護者への事業目的の周知徹底が必要であると考え。 予算の関係上、学習支援の開催日が週3日(曜日固定)のため、児童にとっては他の習い事や家庭の事情等で参加できない曜日があることも目標値未達成の要因として挙げられる。学校、放課後子ども教室および児童クラブとの連携強化により利用者数を増やすことで、目標達成に繋げたい。
小学校で習得すべき学習内容の積み残しがある生徒や、家庭等における学習習慣が定着していない生徒が一定数存在しており、授業外での対象生徒の学習環境の整備と学習に取り組む習慣づけが求められている。	・各中学校に学習支援コーディネーター1名・学習支援員を1名配置。 ・放課後、長期休業期間中における個別学習支援に加え、対象生徒に対する授業における個別支援を拡充する。	放課後と長期休業期間中の学習習慣に対する保護者からの学習支援ニーズは高いため、一定の成果は出しているが、コーディネーターと学校の連携によりより広い放課後事業の周知及び理解を促進する。	①授業における個別支援を拡充することにより、学習の習得に課題がある生徒へのよりきめ細やかな支援につなげる。 ②個別学習をきっかけとして、生徒自身による進路に向けたより前向きな取り組みにつなげる。	①学習支援コーディネーター・学習支援員による授業における個別支援(取り出し、入り込み)時数。 ②個別学習参加生徒のアンケート回収(満足度)	①136(入込)、43(取出) ②夏81%、冬84%	①時数 ②%	①150(入込)、50(取出) ②85%	①120(入込)、26(取出) ②夏70%、冬74%	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる 授業時間の入り込み・個別取り出し支援は、学校の実態、生徒本人と保護者の要望に合わせて行っているが、目標未達成となっている。次年度は生徒・保護者への周知を学力向上担当の教員と連携して行うことが必要であると考え。自分の課題に取り組むことが中心の長期休業中の学習会は、前年度までであった中学3年生対象の受検対策学習会のような講義・演習のスタイルを求める生徒にとってはニーズに合っていないことや、部活動との両立が難しいことなどが要因であると考え。事前に学習会の内容を生徒に理解してもらうことや個別の支援で満足度を高めることで、目標達成に繋げたい。